

GP329 Ex

携帯型無線機(一般業務用)
本質安全防爆仕様

取扱説明書



はじめに

このたびは、モトローラのGP329Ex防爆携帯型(一般業務用)無線機をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

携帯型無線機GP329Exは、信頼性および操作性に優れた耐久性の高い無線機です。

本書は、GP329Exの標準的な操作方法について説明した取扱説明書です。

尚、本無線機をご使用前に必ず本書のご注意、取扱い方法および添付の小冊子をお読みください。

当社の製品/部品、技術及びソフトウェアの取り扱いについてお願い

当社の製品/部品、技術及びソフトウェアは、米国の輸出管理規則(EAR)の適用を受けます。当社から販売、開示、提供、提示、供給及び/又は貸与された製品/部品、技術及びソフトウェアを販売、開示、提供、提示、供給及び/又は貸し出す場合、必ず米国輸出管理規則を遵守の上、実施してください。なお、日本国外への輸出、再輸出の際には、日本の「外国為替及び外国貿易法」並びに同関係法令、米国の輸出管理規則を遵守の上、事前に必要な手続きを全て履行した上で実施してください。米国の輸出管理規則では、技術情報の開示にあたり日本国内であっても、開示する方の国籍により、事前の許可証取得手続きが必要になります。

当社製品/部品の米国輸出管理分類(ECCN)について:

型番#: AZH25KCC6AN3 ECCN: 5A992EENR
AZH25RCC4AN3

コンピュータソフトウェア著作権

本書に掲載のモトローラ製品は、著作権で保護されたモトローラ社コンピュータプログラムを、半導体メモリまたは他の媒体に搭載し、内蔵している場合があります。これらのコンピュータプログラムに関して、いかなる形式による複製・再生を含む(ただし、これらに限定されない)モトローラ社の排他的権利は、アメリカ合衆国および他の国の法律によって留保されています。モトローラ社の文書による許可なく、本書に掲載中のモトローラ製品に含まれる、著作権で保護されたモトローラ社コンピュータプログラムの複製、再生、改作、リバースエンジニアリング、配布は、形式を問わず禁止されています。また、モトローラ社製品の販売において、法律により発生する通常の非排他的使用を除いて、明示的に、暗黙に、禁反言によるものその他を問わず、著作権、特許、または特許出願のいかなる使用も許諾されていません。

© Motorola Inc., 2010

MOTOROLA およびM形状のロゴは、アメリカ合衆国特許および登録商標庁に登録されています。その他すべての製品またはサービス名はそれぞれの所有者に帰属しています。

ご注意

- ・無線機をたいたり落としたり投げたりしないでください。
- ・無線機を濡らしたり、水に沈めたりしないでください。
- ・無線機に腐食剤、溶剤、アルコールなどがつかないように注意してください。
- ・無線機を分解しないでください。
- ・通信は、無線局免許状に記載されている目的、通信の相手方および通信事項の範囲内で行なってください。ただし、人命の救助、洪水、火災などの災害時に、人命にかかわる通信を行なうときはこのような制限はありません。
- ・他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
- ・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。

●本文中のマークの意味は次のようになっています。

	この表示は「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。
	性能を十分発揮できるように、お守りいただきたい事項です。

《安全上のご注意》

●GP329Ex をお使いいただく前に

安全で効率的な操作を行う上で重要な情報です。携帯型無線機GP329Exをご使用になる前に以下の注意事項をお読みください。

無線を安全かつ効率的に操作するために、以下の指針をお守りください。



必ず、下記の警告事項をお読みになってからご使用ください。

本製品を使用する前に、無線機に同封されているリーフレット「製品の安全性と電磁波による影響携帯型無線機用（品番：6804113J43_）」及び、「安全に関する重要なご案内（品番：6871831M03_）」をお読み下さい。

◎無線機本体について

火災や感電故障の原因となりますので、分解や改造は行わないでください。通信に支障をきたすほか電波法令に違反します。

◎付属品、アクセサリおよびアンテナについて

付属品についてはお買い求め頂いた販売店にご相談のうえ正しく取り付けてご使用ください。

モトローラ社として承認しているGP329Ex用アクセサリリストは、無線機に同梱されているリーフレット「ATEX（防爆）認証取得アクセサリリスト(品番：6816237H02_）」を参照下さい。

◎修理について

保証については無線機に同梱されているリーフレット「モトローラ通信機器保証と責任（品番：6804113J44_）」を参照下さい。
故障と思われる場合には、お買い求めいただいた販売店にお問合せください。

◎運転中のご利用について

自動車運転中の無線機利用については、その地域での法令などをご確認ください。自動車運転中に無線機をご使用になる場合には、安全な場所に車を停車させてから無線通信を行ってください。

3

4

◎エアバック付きの自動車について

エアバックは激しい勢いで膨張します。エアバック周辺ならびにエアバックの広がる範囲内に無線機を設置しないでください。無線機が適切な場所に正しく設置されていないと、エアバックが膨張した際に無線機により直接またはエアバックそのものの損傷により人体を損傷する可能性があります。
また、エアバックの寸法、形状、広がる範囲などは自動車の型式や車種によって異なりますので、自動車製造メーカーおよび自動車販売店にご相談ください。

お願い

本無線機は、米国連邦通信委員会（FCC）のRF（高周波）エネルギー被曝の安全要求を満たす場合に限り、使用がみとめられています。高周波エネルギー被曝限度内でのガイドラインを遵守するため、無線機に同封されている「製品の安全性と電磁波による影響携帯型無線機用（品番：6804113J43_）」をお読み下さい。

●バッテリーをお使いいただく前に

本無線機には、必ず以下のモトローラ純正バッテリーをご利用下さい。

製造者	モトローラ・インク
品番	NNTN551OCR
名称	GP329Ex 防爆用リチウムイオン充電電池
定格電圧	7.2V
定格容量	1,480mAh
最大印加電圧（V/m）	8.66V

バッテリーはお引き渡し時には、十分充電されていませんので、新規バッテリー（購入直後又は未使用のバッテリー）をご使用の際は、14～16時間充電してからご使用ください。

5

6

◎その他使用にあたって

ゴルフ場などの野外で携帯無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。
また、長時間直接水のかかる場所や、湿気の多い場所で使用したり、濡れた手などで本機をご使用になると故障の原因となる場合があります。（雨天、降雪、海岸、水辺などでの使用にはご注意ください。）

◎医療用および個人用電子機器との混信

- 1) 医療用および個人用電子機器のほとんどは、電磁波からシールドされています。ただし、十分シールドされていない電子機器については、無線機からの電磁波の影響を受ける場合があります。アンテナから15センチ以内のところにこれらの機器や他の人がいる場合、無線通信などの操作を行わないでください。
- 2) シールドされていないペースメーカー、補聴器などの個人用電子機器には、影響を及ぼす可能性があります。医療施設内や人と人が近接する満員電車の中などに入る場合、医療施設内の各種医療機器や計器あるいは個人の医療電子機器に影響をあたえる可能性があるため、無線機の電源をOFFにして無線機を使用しないでください。

◎その他電子機器との混信

- 1) 正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。
- 2) 空港施設内に入る場合、空港施設および航空機の各種装置や計器に影響をあたえる可能性があるため、無線機の電源をOFFにして無線機を使用しないでください。

◎無線通信をするにあたって

無線機を手にとって通信する場合は、無線機のアンテナと人体頭部との距離を2.5cm以上離して通信してください。また、ベルト等に装着して通信する場合は、無線機のアンテナと人体との距離を2.5cm以上離して通信してください。
無線機を「使用中」の場合、人体がアンテナに触れていると通話品質が悪くなり、出力レベルが必要以上に高くなる場合がありますのでアンテナには触れないでください。

また、バッテリーをお使いになる前に、以下の注意事項を必ずお読みください。



誤った取り扱いをすると、発熱・漏液・破裂のおそれがあり危険です。必ず下記注意事項をお読みになってからご使用ください。

◎充電の際には専用の充電器を使用してください。

◎高温になる場所（火のそば、ストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生するような場所での充電・放置はしないでください。

◎バッテリーの端子をショートさせないでください。持ち運ぶ際や保管する時は、端子が金属片などと接触しないようにしてください。

◎釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

◎直接半田付けしないでください。

◎分解や改造はしないでください。

◎危険地域（火気厳禁表示、又は引火性ガスなどの取り扱い場所等）内では、絶対にバッテリーを充電しないでください。



長年に渡りバッテリー性能を維持するためにも、必ず下記注意事項をお読みになってからご使用ください。

◎夏期、閉め切った車内に放置するなど極端な高温や低温環境では電池の容量が低下し利用できる時間が短くなります。また、電池の寿命も短くなります。できるだけ、常温（20℃±5℃）でご使用ください。

◎水、雨水、海水などにつけたり、ぬらしたまま放置しないでください。

◎長期間バッテリーを使用しない場合には、無線機本体からバッテリーを外して湿気のないところで保管してください。

●リモートスピーカマイクをお使いいただく前に



◎リモートスピーカマイクの脱着は、危険地域（火気厳禁表示、又は引火性ガスなどの取り扱い場所等）内で絶対に行わないでください。

はじめに	1
●ご注意	2
●目次	7
●製品および付属品	8
●各部の名称と機能	9
無線機各部の説明	9
オプション機能説明	11
●アンテナの着脱方法	11
アンテナを取り付ける	11
アンテナを取り外す	11
●バッテリーの着脱方法	12
バッテリーを取り付ける	12
バッテリーを取り外す	12
●通話方法	13
音声品質の向上	13
電源のオン、オフ	13
通話	14
チャンネル、通話モードの選択	14
受信/送信	14
●機能	15
ローバッテリー警報	15
●警報音	15
●バッテリーの取り扱い	15
バッテリーの充電	15
バッテリーの持続時間	15
充放電寿命	16
使用温度範囲	16
過放電について	16
バッテリーの保存法	16
バッテリーの廃棄	16
●充電器の取り扱い	17
●保守	18
無線機表面の手入れ	18
アフターサービスについて	18
●本質安全防爆無線機について	19

はじめに同梱品を確認して下さい。
※お客様の選択によって異なる場合があります。

●無線機本体 (GP329Ex)

●アンテナ (VHF用またはUHF用)

●防爆用バッテリー (GP329Ex 防爆用リチウムイオン充電電池:1480mAh)

●アクセサリ端子部保護カバー (専用工具付:六角レンチ)

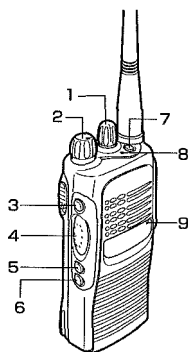
●充電器

●ベルトクリップ

●取扱説明書 (本書)

各部の名称と機能

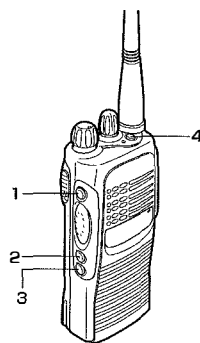
■無線機各部の説明



- 1 チャンネル切替スイッチ (16チャンネル)
チャンネルの切り替えに使用します。
- 2 電源オン・オフ/ボリュームスイッチ
無線機の電源のオン・オフ及び音量の調整に使用します。
- 3 サイドボタン1
初期設定は、モニター機能設定登録
- 4 送信ボタン (PTT)
送信ボタンを押し続けている間送信します。
離すと受信状態となります。
- 5 サイドボタン2 (プログラム可能*)
初期設定は未設定
- 6 サイドボタン3 (プログラム可能*)
初期設定は未設定
- 7 トップボタン
初期設定は、ウイスピーア機能を設定登録
- 8 LEDランプ
送受信の状態、バッテリーの状況、電源の状況
を色と点滅・点灯により表示します。
- 9 マイク
- 10 アンテナ
- 11 アクセサリ端子部保護カバー

※1 プログラム可能とはオプション機能をプログラム可能な各ボタンにあらかじめ登録設定することが可能です。(一部有料)
詳細につきましては、お買い求め頂いた販売店までお問合せください。

●オプション機能設定ボタン



- 1 サイドボタン1
- 2 サイドボタン2 (プログラム可能*)
- 3 サイドボタン3 (プログラム可能*)
- 4 トップボタン

初期設定

ボタン名	オプション機能
サイドボタン1	モニター/キャンセル
サイドボタン2	—
サイドボタン3	—
トップボタン	ウイスピーア機能

オプション設定 (貴社仕様の設定)

※次頁で記載している機能の設定が可能です。設定された場合に下欄に記入し、保管ください。

ボタン名(プログラム可能)	オプション機能
サイドボタン2	
サイドボタン3	

■オプション機能説明

プログラム可能な各ボタンにあらかじめオプション登録を行うと下記オプション機能を利用することができます。

●モニター機能（初期設定：サイドボタン1）

モニター設定ボタンを約3秒間押し続けると、“ビッ”音が鳴り、受信音声のミュートが解除されモニター状態となります。

再度ボタンを押し、“ビッ”音が鳴るとモニター機能が解除されます。

●ウイスピーア機能（初期設定：トップボタン）

小声での通信もはっきり聞き取ることができる機能です。ウイスピーア設定ボタンを一回押すと“ビッ”と音が鳴り、ウイスピーア動作状態となります。再度ボタンを押して“ブッ”と音が鳴ると機能が解除されます。

※上記すべてのオプション機能は、あらかじめ無線機本体に設定が必要です。
詳しくはお買い求め頂いた販売店までお問合せください。

アンテナの着脱方法

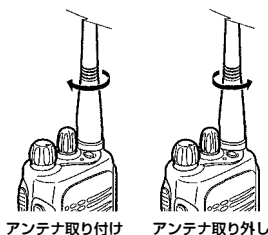
■アンテナを取り付ける

1 アンテナコネクタにアンテナ底部をあわせませう。

2 アンテナを時計回りにしっかりと止まるまで回します。

■アンテナを取り外す

1 アンテナを反時計回りに外れるまで回します。



アンテナ取り付け

アンテナ取り外し

11

通話方法

■音声品質の向上

音声品質を向上するために以下の機能を設定することができます。
※予め設定が必要です。お買い求めの販売店にご相談ください。

●ローレベルエクステンション（LLE）

LLE機能は受信時に周囲の雑音を抑え、通話を聞き取り易くします。

●コンバンダ機能

コンバンダ機能は音声の品質を向上させます。送信時に音声を圧縮し、受信時に伸張することで、周囲の雑音を少なくします。この機能はコンバンダ機能が設定されている無線機間の通信時のみ有効です。

■電源のオン、オフ

●電源オン

下図に示す方向（時計方向）に電源/ボリュームノブを回すと、電源が入ります。

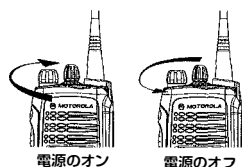
電源投入後、無線機は自己診断を行います。自己診断中は、LEDランプが“緑色点灯”し正常に終了すると、無線機は受信状態になります。

もし、自己診断で不具合が検出されると、“ブッ”の警報音が出力されます。
この場合は、一度バッテリーを外し、再度装着し電源を投入してください。症状が改善されないようでしたら、お買い求めいただいた販売店にお問合せください。

電源投入後、このノブは音量調整ノブとして機能しますので、これを回し、受信音量の調整を行います。

●電源オフ

下図に示す方向（反時計方向）にノブを「カチッ」と音がするまで回すと電源がオフになります。



電源のオン

電源のオフ

13

バッテリーの着脱方法



危険地域（火気厳禁表示、又は引火性ガスなどの取り扱い場所等）において、バッテリーの着脱及び交換は絶対に行わないでください。発火誘発の可能性があります。

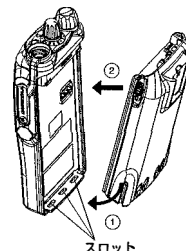


備考：バッテリーの充電、廃棄についてはバッテリーの取り扱い項をお読みください。

■バッテリーを取り付ける

1 無線機背面にある3つのスロットに合わせてバッテリーを装着します。

2 バッテリーの上部を無線機に押し付けるように「カチッ」と音がするまで押し込みます。



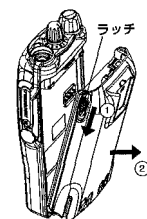
スロット

バッテリーの取り付け

■バッテリーを取り外す

1 バッテリー上部の両側にあるバッテリーラッチを押し下げます。

2 バッテリー上部を無線機本体から外します。



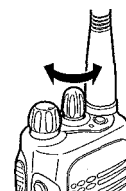
バッテリーの取り外し

12

■通話

●チャンネル、通話モードの選択

チャンネル切替スイッチを回して通話を行うチャンネルに設定します。



チャンネル、通話モードの選択

備考：チャンネル切替スイッチの指示番号に周波数がプログラムされていない場合、“ブー”の連続警報音が出力されます。

●受信/送信

受信

音量調節

ボリュームスイッチを回し、受信音量を適切なレベルに合わせます。

スケルチ

この無線機は、オートスケルチ仕様です。スケルチ開放感度以上の信号がアンテナに入力されるとミュートが解除され、受信音出力されます。

また、モニターボタンを押すことで、ミュートを解除することができます。

ビジーランプ

他局が通信を行っているとき、LEDランプが赤色点滅し、受信音を聞くことができます。

送信

送信

送信する時は、送信ボタンを押します。送信ボタンを押すと、送信中はLEDランプが赤色点灯します。

送信ボタンを押したままマイクから約5cm程度離して通話してください。

連続送信時間は最大1分間です。超過すると送信ができなくなり、送信ボタンを押している間は“ブー”の警報音が出力されます。

14

■ローバッテリー警報

バッテリーの残量が著しく少なくなると、
待ち受け時“ブブブ”の警報音が秒おきに出力されます。
送信の時は、LEDランプが赤色点滅します。
この時は速やかに充電するか、充電済みのバッテリーと交換してください。

警報音

警報音の種類と内容について

警報音	内 容
ビブー	セルフテストの不良
ブブブ	ローバッテリー
ブー	ボタンエラー またはハードウェアエラー または送信時間超過時



■バッテリーの充電

充電器の電源ケーブルをACコンセントに接続し、バッテリーを差し込みます。バッテリーは無線機に取り付けたままの状態でも、また無線機から取り外した状態でも充電することができます。バッテリーを無線機に取り付けたまま充電する場合は、必ず無線機の電源を切ってください。

■バッテリーの持続時間

バッテリーの持続時間については以下の動作状態を基に計算したもので、実際の使用状況によって変化します。特に送信回数が多くなると持続時間が短くなります。

送信：受信：待受状態 = 5：5：90比率 のとき、GP329 Exに付属のリチウムイオンバッテリーの持続時間は、約11時間です。

15

16

充電器の取り扱い

充電器は、GP329Ex専用充電器（型番JMTN4011）をご使用ください。



●危険地域（火気厳禁表示、又は引火性ガスなどの取り扱い場所等）内では、絶対にバッテリーを充電しないでください。



- ・バッテリーを無線機に装着した状態で充電するときは、必ず電源スイッチをオフにしてから充電してください。
- ・充電器は、室内の雨等水滴のかからない場所でご使用ください。
- ・40℃を超える場所での充電は行わないでください。
- ・充電器のポケット（差し込み口）は、複数の異なるバッテリーも対応可能となるように柔軟性を有しております。バッテリーを充電する際は、ポケットのガイドがバッテリーのガイドレールに確実に入っているかまた、充電が開始しているか必ずランプを確認してください。
- ・新規バッテリー（購入直後又は未使用のバッテリー）をご使用の際、最初の充電は14～16時間充電してからご使用ください。

充電器LED表示

LED表示	状態
緑点灯1回	充電器起動
赤点滅	充電不可
オレンジ点滅	充電待機中
赤点灯	急速充電中
緑点滅	約90%充電完了
緑点灯	急速充電完了

17

18

■充放電寿命

バッテリーの充電および放電の繰り返し回数（サイクル）寿命は約300回です。
もし、1日数回充放電するような使い方をされる場合には、複数のバッテリーをお持ちになることをおすすめします。

■使用温度範囲

リチウムイオンバッテリーの使用温度範囲は5℃～50℃ です。
0℃以下での低温で使用される場合には、使用時間が短くなります。

■過放電について

無線機の電源スイッチを切り忘れたまま長時間放置されるとバッテリーが過放電となり、バッテリーの寿命が短くなる原因となります。長時間で使用にならない時や容量がなくなってきた場合には、必ず無線機の電源スイッチを切るかバッテリーを取り外してください。

■バッテリーの保存法

室温で湿度の低い場所に保管してください。極端に高い温度になったり低い温度になる場所や、湿度の高い場所には保管しないでください。完全充電した場合でも長期間（約6ヵ月以上）保管しておくと、徐々に自然放電していきます。1年以上放置した場合使えなくなることがあります。

■バッテリーの廃棄

古くなったバッテリーを廃棄するときには、お買い求め頂いた販売店にご連絡ください。バッテリーをごみとして捨てると、環境汚染の原因になります。
大切な資源を守るため、リサイクルにご協力ください。

保 守

■無線機表面の手入れ

- ・固めの豚毛のブラシに洗剤溶液（台所用洗剤を水に混ぜて作ったもの）を少量付けて清掃してください。
- ・清掃後は、糸くずのつかない布でよく拭いてください。
- ・洗剤の溶剤がコネクタ付近、または溝やすき間に残らないように注意してください。



- ・無線機を直接、洗剤溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。
- ・溶剤やアルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

■アフターサービスについて

無線機は定期的に、点検をされることをおすすめします。
お買い求め頂いた販売店までご相談ください。

●保証期間

GP329Ex無線機本体の保証期間は2年間です。バッテリーの保証期間は1年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合にはお手数ですが、お買い求め頂いた販売店までご連絡ください。弊社修理規定に基づき、無料で修理いたします。

●保証期間経過後の修理

GP329Ex防爆携帯型無線機はモトローラでの修理（有料）対応となりますので、お買い求め頂いた販売店までご相談ください。

本質安全防爆無線機について

●本質安全防爆無線機GP329Exの日本国内における防爆コードは以下の通りです。

防爆コード： Ex ib IIC T4

工場電気設備防爆指針（国際規格に整合した技術的基準対応2006）

Ex=防爆構造であることを示す記号

ib=本質安全防爆構造の種類を示す記号

IIC=工場又は事業所の危険場所において使用されるもの（鉱山以外）

T4=ガス又は蒸気の最小点火電流比の範囲が0.45未満

T4=電気機器の最高表面温度の範囲が100℃を超え135℃以下を示す

●本質安全防爆無線機GP329Exは以下の本質安全防爆認証を取得しています。

欧州防爆指令（ATEX）	BVS 07 ATEX E 095 X 取得年月日 2007年12月20日 Gas Protection：II 2G Ex ib IIC T4
IECEX（IEC防爆電気機器規格 適合試験制度）／国際電気標準 会議	IECEX BVS 08.0019 取得年月日 2008年5月29日 Gas Protection：Ex ib IIC T4

19

20

- MEMO -



お問い合わせ先

国内営業部 モトローラ製品.....03-3719-2231

ホームページ.....<http://motorola-bizunit.jp>

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、MOTOROLA、モトローラのロゴマーク及び商標が付けられた商標は米国およびその他の国におけるMotorola, Inc.の登録商標です。文中に記載されている他社の商品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。
本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」（為替）及び「米国の輸出管理規則」による規制を受けますので、当製品を輸出する場合は、同法に基づく手続きが必要です。



販売元 株式会社バーテックススタンダード 東京都目黒区中目黒4-8-9



6871905M01-C

©2010 VERTEX STANDARD Co., Ltd.

[JM-1]

21